

「2023年度韓国・延世大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学文学部4年 佐藤 彬子

① 学習成果

今回の派遣に参加して、想像していた以上に自分の英語・韓国語が通じることが分かりました。英語は以前から交換留学のために勉強していたため、ある程度は話せるという自負がありましたが、韓国語は韓国ドラマ・K-pop を聞き流して習得しただけだったにも関わらず思いのほか会話が出来て感動しました。失敗を怖がらずに積極的に話すことが習得の鍵だと改めて実感しました。しかし、英語も韓国語も一定以上のレベルになると難しかったです。例えば語学堂で知り合った英語母語話者との会話では、英語が早すぎて聞き取れなかったり何を言っているかは分かっても気の利いた返事を出来なかったりと苦労しました。会話はテンポが大切なので他の人と同じテンポで話せないと、ずっと相槌を打っているだけになりました。韓国語も韓国語母語話者と話す際には日本人と韓国語で話すよりグッと難易度が上がりました。日本人同士で話す時は、母語が同じなだけあって自分の言いたいことを相手がくみ取ってくれました。対照的に、言語的バックグラウンドが全く異なる韓国語母語話者との会話ではそれが出来ず、非常に苦労しました。

全体として、自分の現時点での語学力を派遣前よりも正確に把握することが出来ました。何が出来て、何が出来ないのかがよく分かりましたし、何がどれくらい出来ればどのレベルに到達するのか、という今後の課題も見えてきました。特に英語は、今年の8月からアメリカへ交換留学に行くこともあり現時点での自分のレベルを把握できたのは非常に幸いだったと思っています。

また、大学での学習に関しては質問しようと思いながら講義を聴くことの大切さを実感しました。せっかくの特別講義なうえに、自身の興味のある分野なのだから絶対に質問しよう、と思って Kahm 先生の講義に挑みましたが、結果非常に集中することが出来ました。これまでは、ひたすらこなすように聞いていた大学の授業でしたが、こうやって聞けばより学びの多い時間になるんだ！と気づくことが出来、いい経験になりました。Kahm 先生のどんな質問にも真摯に誠実に返答し、歓迎してくださる姿勢も嬉しかったです。

② 海外での経験

体調を崩したり、危険な目に遭ったりすることはなく、順調に楽しく3週間を過ごすことが出来ました。一番思い出に残っているのは景福宮です。日本の寺社仏閣では見られないようなカラフルな装飾に圧倒されました。想像以上に景福宮が大きく、見所の多い魅力的な場所でしたのでまた行きたいと感じました。また、毎日の食事も貴重な経験になりました。韓国の食を心ゆくまで堪能できたのは長期滞在だったからこそだと思います。さらに、今回の派遣は単なる旅行ではなく学生生活も送れたため、韓国大学生らしく食堂も利用でき、より一層特別な経験となりました。延世大学の学食の一番安いメニューは辛ラーメンで、その場でお湯を入れて作るのですが、いかにも韓国らしくて初めて見たときは感動しました。お金が足りなくなった時にはコンビニに売っている2300ウォンのキンパを買ってお昼ご飯にしていたのですが、それさえも楽しかったです。

③ プログラム内容

平日の午前中は13時まで語学堂で授業、2週目以降は週に3日ほど文化体験の授業とUICの授業を受けました。午後に授業がない日はソウル市内をあちこち観光し、午後に授業がある日も美味しい韓国料理を求めてキャンパス付近、ホテル付近をウロウロしていました。私の韓国語力は話す・聞くが多少できる、読む・書くは全く出来ないというアンバランスなものでしたのでレベル1のクラスに入りました。レベル2以上に配属されるにはハングルが読める、書ける必要がありました。レベル1は最初の3日でハングルの発音と書き

方を学習し、3日目の途中から簡単な文法を学び始めます。勉強したことはないけれど、話せる文法事項の多かった私にとっては、レベル1で基礎的な文法を改めて学習するのは非常に楽しかったです。自分がこれまで話していた言葉の構造を改めて解説してもらい、「なるほど、そんな規則に則って話していたのか!」という不思議な経験をしました。先生方も非常にプロフェッショナルで、他のレベルの友達と話をしていてもレベル1の先生が一番ベテランな先生のように感じました。3週間のプログラムを終えた今は、韓国語の会話において専門的な内容でない限り70%ほどは理解できるようになりました。語彙が増えたことと、基礎的な文法を少し学んだことがかなり影響しているように思います。韓国語はハングルの表記と発音にずれがあることが多いため、読んで理解できるのは30%にも満たない程度ですが、これに関しては今後も勉強を続けたいと思います。

④ 進路への影響について

今回の派遣の前からアメリカへの留学が決まっていたのですが、延世大学がとても魅力的な大学だったため、延世大学にも留学したくなりました。卒業論文ではフランスの事例を扱い、院進後も地域は変えずに研究を行おうと思っていましたが、現在は少し迷いが生じています。4月以降、研究計画の提出があるためその際に指導教員の先生とよくよく相談したと考えています。

⑤ 韓国語で一言

정말 즐거운 3 주였습니다.

연세대에 유학하고 싶다는 생각이 들었습니다.

⑥ UIC 講義感想

UIC 講義(ジェンダー学を選択)に関しては卒業論文でもジェンダー史を少し勉強していたため理解に役立ちました。ですが、やはり英語で聞くと難しく、内容の50%も理解できた自信がありません。事前に先生が配布資料をくださったため講義の内容を知ることは出来ましたが、かなり時間をかけて読まないで理解するには至りませんでした。残念ながら日々の語学堂の復習もあり、事前資料をしっかりと読み込んで講義に参加することは出来ませんでした。その点を非常に後悔しています。

講義は最初の2回の授業でジェンダー学における様々な概念の紹介を行い、最後の2回で朝鮮王朝時代の史料から当時の状況について考察する、というものでした。韓国は儒教の影響が強く、その点からジェンダーについての考察を行っているのが非常に新鮮でした。授業内で指摘されていた、儒教そのものがジェンダー的不平等を内包しているのではなく、その実践の段階において不平等が構築されているのだという点が、私の中にあつた儒教に対する家父長的、男性中心的イメージを修正するもので、新鮮でした。儒教の教えと実践を区別して分析することは、社会におけるどの段階で不平等が創出されるのかを考察するために不可欠なステップだと感じました。